

子どもが孤立しないための 第二の夜間の居場所

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに對し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人フリースクール クレイン・ハーバーの取り組みを紹介します。

不登校の子どもが 安心して過ごせる居場所を運営

長崎市にある特定非営利活動法人フリースクール クレイン・ハーバーは、不登校やひきこもり傾向にある子ども・若者に対し、安心して過ごせる居場所と、さまざまな体験活動を提供することにより、自立に向けた支援に取り組んでいる。

子どもたちを取り巻く環境が変化するなか、不登校の子どもも支援に始まり、若者の就労支援、子育て支援、家族支援へ活動を広げ、子どもの貧困問題に着目し、平成28年から

ユース学生服による寄付活動を行う「学生服バンク」を開始している。

不登校の子どもたちの居場所を開設した経緯について、代表の中村尊氏は次のように語る。

「私は学生時代から小学校の教員になることを目指していましたが、大学で教職課程を学ぶなかで、自分のやりたい子どもとの関わりは難しいと感じたため、卒業後は地元の企業に就職した経緯があります。その後、不登校の問題が社会的な課題となり、フリースクールという言葉が出始めた頃に、子どもに関わる仕事をしたかったという思いが再燃しました。当時、県内にはフリースクールがなかったため、不登校の親の会が開催する子どもの居場所にボランティアとして参加したところ、居場所であれば自分がやりたかった子どもとのふれあいができると考え、平成16年3月に不登校の子どもが安心して過ごせる居場所を立ち上げました」（以下、「」内は中村代表の説明）。

庭付きの一軒家を活用したフリースクールは、家庭環境に影響されない子どもの成長支援を行い、さまざまな悩みを抱える子どもへ教育・成長の機会を提供している。フリース

WAMから ひと言

夜間の居場所支援をするうえで、子どもの周囲の大人に対してもストレスがかからないよう十分に配慮して運営されていたことが印象的でした。保護者とのコミュニケーションの場を積極的に設け、送迎等のニーズにも対応しました。ボランティアスタッフには活動と一緒に楽しみながら支援に協力してもらうもの、子どもとの関係性が深まりすぎてストレスになってしまうことを懸念し連絡先交換は禁止とする等、周囲の大人に負担がかからないよう努められたことが見守り体制の維持につながり、子どもの前向きな変化に現れたのだと考えます。

夜間の居場所の開設で 親も安心して仕事に従事

同法人は、令和3年度のWAM助成を活用し、「子どもが孤立化しないための『第二の（夜間）居場所』事業」を実施した。

同事業は、共働きやひとり親世帯の子どもへの孤立化や自己否定を抑止し、親が安心して仕事に従事できる環境の提供を目的に、夜間

クールの活動では、学習支援に取り組むものの、学校復帰は目標としておらず、子どもたちの主体性を育むことを大切にし、さまざまな体験活動の機会を提供していくことをコンセプトとしている。結果として人と関わる活動を通して自己肯定感が高まり、学校復帰につながるケースも多いという。フリースクールに通うことで学校の出席扱いとして認められるなど、学校との連携も進めている。





共働きやひとり親世帯の子どもに対し、平日の17～21時まで同法人のフリースクールを夜間の居場所として開放し、延べ1883人が利用した



の居場所を運営するとともに、親子交流を行う「保護者デー」を開催した。

「長崎市は子どものいる世帯のうち、ひとり親世帯の割合が、全国と比べて高い現状があります。共働きやひとり親世帯の子どもは学校から帰宅しても1人で過ごす時間が長く、孤独感を抱いたり、家庭的な温もりを感じられない子どもが少なくありません。市内には92カ所の学童保育施設があるものの、すべての希望者を受け入れることはできませんし、夜間に運営している施設は少なく、中高生を対象にしている施設はありません。このような課題に対し、夜間の居場所を開設して他者とのコミュニケーションの充実や学習支援、食事の提供をすることにより、子どもたちが孤立を感じることなく親の帰りを待つことができ、保護者には安心して仕事に従事できる環境を提供することに取り組みました」。

延べ1883人の子どもが利用

夜間の居場所は、放課後から夜間にかけて孤立しがちな共働きとひとり親家庭の小中高生を対象に、平日の17～21時までフリースクールの場を開放し、安心して過ごせる場所とともに食事の提供を行った。

居場所の利用実績（267回開催）は、年間延べ1883人、1日当たり約7人が利用した。居場所にはゲームやマンガ、ボードゲームなど、自分が好きなことをして過ごせる環境を用意し、スタッフは法人職員2人と大学生ボランティアに参加してもら

事業概要

助成額

339万9千円



WAM 助成
e-ライブラリー

令和3年度事業

特定非営利活動法人 フリースクール クレイン・ハーバー

子どもが孤立化しないための「第三の（夜間）居場所」事業

【事業概要】

共働きやひとり親世帯の子どもを対象にした夜間の居場所を運営し、他者とのコミュニケーションの充実や学習支援、社会的支援を通して子どもの孤立化や自己否定を抑止するとともに、親が安心して仕事に従事することのできる環境を提供する事業



【実施内容】

◆第三の（夜間の）居場所の運営
放課後から夜間にかけて孤立しがちな小中高生に対し、平日の17～21時の時間帯に居場所を開放し、食事の提供や宿題等の学習サポート、子ども同士やスタッフとの交流を行う



◆保護者デーの開催
休日に保護者が一緒に参加できるイベントを開催し、子どもとの時間を共有するとともに、保護者からの相談を受けることで子育てに対する不安の軽減を図る

【成果】

◆全267回開催した夜間の居場所は、延べ1883人（1日当たり約7人）の子どもが参加した居場所での過ごし方や活動は、子どもとスタッフが話しあうことで、自主性や協調性を育んだ。また、食事の提供では、子どもとスタッフが一緒に食事をつくり食えることにより、栄養面・健康面のサポートにとどまらず、家庭的な自己受容感を得ることができた



◆年間14回開催した保護者デーは、延べ81人の親子が参加した。野外活動や季節行事、食事会などを通して、子どもと保護者が楽しい時間を共有することで親子関係の向上を図るとともに、保護者の相談対応を行うことで子育てに対する不安を軽減することができた

い、食事の準備や学習支援、子どもと交流を図りながら、さまざまな体験活動の機会を提供した。

「居場所の周知方法としては、社会福祉協議会や子育て支援を行うNPO法人等を通じて紹介してもらったほか、加入する子ども食堂ネットワークに案内チラシを配布しました。また、送迎については、長崎市は坂が多く小学生だと自分で来所することが難しいこともあり、スタッフが学校や自宅まで迎えに行きました。活動の終了後は基本的に保護者に迎えに来てもらうこととしていますが、仕





居場所の野外活動として農作業に取り組む子どもたち



子どもとスタッフが一緒に食事をする様子。子どもたちの希望するメニューを取り入れながら、調理を手伝う機会をつくった

きたサインだと思っ
ています。なかには
親の仕事が忙しく、
親子関係がギクシャ
クしていると感じる
ケースもあります
が、当法人の場合、
保護者が子どものた
めに居場所を調べ
て、預けているので
虐待を疑われるとい
うケースはほとんど
ありません。ただ、
どうしても仕事の都

そのほかにも助成事業では、保護者デーと
して土曜・日曜日に保護者も一緒に参加でき
るイベントを年間14回開催し、延べ81人の親
子が参加した。
イベントでは、みかん狩りやタケノコ掘り、
田植え・稲刈り体験、川遊び・海水浴のほか、
節分やクリスマス会などの季節行事を行い、
親子での楽しい時間を共有する機会を提供す
るとともに、保護者の相談対応を行い、子育
てに対する不安の軽減を図った。

親子の交流と子育てに対する 不安軽減を図る

合で食事をつくる時間が確保できず、コンビ
ニの食事で済ませている子どもも少なくない
ため、食物アレルギーに配慮しながら栄養バ
ランスのとれた食事を提供すること、食事は
楽しいと感じてもらえる環境をつくること
は意識しています」。

一方、スタッフに対しては、子どもの自立
を目指すため、共依存関係にならないように
個人の連絡先は交わさず、相談等は居場所内
で受けることを徹底しているという。

「とくにボランティアスタッフは人の役に
立ち、信頼されることで承認欲求が満たされ、
プライベートの時間にも対応してしまいがち
ですが、対応できないことが起きると『信頼
していたのに裏切られた』とトラブルに発展
するケースがあります。それは相手のためにな
りませんし、支援者にとっても負担になる
ことを理解したうえで、子どもと接すること
が重要になります」。

活動を話しあうことで 自主性や協調性を育む

居場所の過ごし方や活動については、子ども
たちとスタッフがミーティングで話しあう
ことで、自主性や協調性を育むことに取り組
んでいる。

野外活動として、庭でバーベキューや窯で
ピザを焼いたり、市民農園で野菜の栽培をす
るなど、非日常的な機会を提供している。ま
た、自宅で動物を飼うことができない家庭が
多いなか、居場所で飼っている猫やウサギを
子どもたちが世話をしている。動物とのふれ
あいが癒しとなるため、居場所を利用して
いる子どももいるという。ゲームをするとき
は年齢差があってもみんなが楽しめる工夫を
したり、野外活動では危険がないように年上
の子どもが年下の子どもを見守るといった気
配りが活動を通して自然に身につけられて
いるという。

「子どもとの関わりでは、支援するのでは
なくスタッフ自身が一緒に活動を楽しむこと
を大切にしています。このようなスタンスで
関わることで子どもとの関係性が構築され、
親や学校の先生には話しにくい相談や話をし
てくれるようになります。内容としては親の
愚痴が多く、これまで話す相手がいなかった
親の愚痴を話し始めたら、居場所に馴染めて

事の都合などで困難な場合は事前に伝えても
らえれば、自宅まで送りました」。

居場所での活動の流れとしては、利用者が
揃うまでは各々が学習サポートを受けながら
学校の宿題をしたり、調理に興味のある子ど
もがスタッフと一緒に食事の準備を行い、6
時半頃に利用者全員で食事をしている。食後
は子ども同士やスタッフがコミュニケーション
を図りながら過ごしている。



イベントを通して参加した親子同士が一緒に食事をつくって食べることで、栄養面・健康面への理解を深めるとともに、自己受容感を得ることにつながったという。

さらに、保護者ミーティングとして、居場所での子どもたちの様子の報告や、アンケート調査を実施して活動への感想や要望を聞き取るにより、よりよい場にすることを目指した。保護者からは「居場所での活動を子どもから話してくれるので、家庭内での会話がが増えて親子関係が向上した」、「家庭だけで子育てを抱え込まなくてもよいことがわかり、気持ちに余裕をもって子どもと接することができるようになった」、「子育てで不安があるときに、すぐに相談できるので安心できる」などの声が寄せられたという。

子育ては家庭だけでなく 地域で育む

特定非営利活動法人フリースクール クレイン・ハーバー

代表 中村 尊氏



WAM助成では、夜間の居場所を運営しましたが、とくに生活困窮世帯の子どもは体験活動の機会が少ない傾向があるので、居場所を活用してもらい、さまざまな体験活動や社会とつながることで将来の希望がみえることにつながるのではないかと思います。

地域の子育て支援の情報を周知していくため、今年度は「こどもの未来応援基金」を活用し、居場所を含めた地域の子育て支援情報を発信するホームページと紙媒体の制作に取り組む予定です。

今後は、助成金に頼らなくても自立して夜間の居場所を運営していくため、個人や企業の寄付を増やしていく必要があります。子育ては家庭だけでなく、地域で育んでいくという考えを広めながら、皆さんの支えで子育てのサポートができていことを伝えていきたいと思っています。

◆団体概要

〒852-8145 長崎市昭和3丁目387-1

TEL: 095-844-8899

FAX: 095-844-8799

URL: <https://craneharbor.info>

設立: 平成16年3月

代表: 中村 尊



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)

TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)

TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)



保護者デーでは、みかん狩りやタケノコ掘り、田植え体験、川遊び、バーベキューなどを企画し、親子と一緒に過ごす機会を提供した

学習支援に特化した居場所を開設

助成事業の成果としては、安心して過ごせる夜間の居場所を運営し、さまざまな人との交流を通して子どもの孤立化を防ぐとともに、保護者の子育て支援や親子関係の向上につなげることができた。

「子どもたちは居場所での活動を通して、スタッフが介入しなくても子ども同士でコミュニケーションを図れるようになったり、他者を思いやる気持ちが生まれるなど、子どもたちの変化がみられたことは大きな成果となりました。利用者のなかには、大人になった子どもと関わる仕事をしたいと話してくれる子どももいて、生きていく希望をもてたことは本当にうれしく感じています」。

その一方で、保護者から居場所での活動について、学習支援に力を入れてほしいという要望を受け、令和4年度から夜間の居場所とは別に共働きやひとり親、生活困窮家庭の子どもを対象にした無料学習塾を立ち上げ、高校受験を控えた中学生を中心に利用されているという。

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

